

慶應義塾大学 理工学部 (2月12日)

数学

ア	$\frac{\pi}{8}$	イ	$\frac{\pi}{\sqrt{3}}$
ウ	$t - 2$	エ	$\frac{1}{5}$
オ	$\frac{2}{5}$	カ	$(y =)x^2 + \frac{16}{25}$
キ	2	ク	3
ケ	$\pm \frac{1}{3\sqrt{3}}$	コ	$\frac{49}{400}$
サ	$\frac{1}{50}$	シ	$\frac{3}{40}$
ス	$\frac{9}{5}p^2(1-p)$	セ	$\frac{5}{7}$
ソ	$e^x - e^{-x}$	タ	$e^{\sin x} + e^{-\sin x}$
チ	$-\log \frac{3(x^2 + 1)}{2}$	ツ	$2 - \frac{\pi}{2} - \log 3$
テ	$\frac{1}{16}x^3$	ト	$\frac{4}{3}$
ナ	$\frac{10}{81}$	ニ	$\frac{2}{5}$
ヌ	$\sqrt{37} - 5$		

※証明問題は次ページ



2. (1)

$x = \alpha$ が方程式 $P(x) = 0$ の 2 重解であるとき、整式 $Q(x)$ を用いて

$$P(x) = Q(x) \cdot (x - \alpha)^2$$

と書ける。すると、

$$P'(x) = Q'(x) \cdot (x - \alpha)^2 + Q(x) \cdot ((x - \alpha)^2)' = Q'(x) \cdot (x - \alpha)^2 + 2Q(x) \cdot (x - \alpha)$$

であるため、

$$P'(\alpha) = Q'(\alpha) \cdot (\alpha - \alpha)^2 + 2Q(\alpha) \cdot (\alpha - \alpha) = 0$$

が成り立つ。したがって、 $x = \alpha$ が方程式 $P'(x) = 0$ の解となることは、 $x = \alpha$ が方程式 $P(x) = 0$ の 2 重解となるための必要条件である。

4. (2)

$g(x)$ の定義より

$$g(-x) = \int_0^{-2x} e^{-f(t+x)} dt$$

となる。 $t + 2x =: t'$ と変数変換 (置換積分) することで

$$g(-x) = \int_{2x}^0 e^{-f(t'-x)} dt' = - \int_0^{2x} e^{-f(t'-x)} dt' = -g(x)$$

より $g(-x) = -g(x)$ が成り立つので、関数 $g(x)$ は奇関数である。

